北九州市立菊陵中学校
学校だより
13号
校長　上赤義人

学校教育目標
生徒一人一人の個性の伸長を図り、
徳・知・体の調和のとれた、
感謝の心をもつ自立した生徒の育成

謹　賀　新　年

明けましておめでとうございます。

いよいよそれぞれの学年のまとめの時期です。特に、三年生は中学校生活最後の時であり、自己の進路を決定する大切な日々です。何事にも悔いの残らないよう全力を出し切っていくことを願っています。また、一・二年生も進級を前にして、次学年の準備の意識をもち充実した生活を送ることを期待しています。

先月の「学校だより12号」に掲載した年末年始にかかわるクイズは解いてみましたか。分からなかった問題はどうしましたか。「そのままにした」「誰かに尋ねた」という人もいるでしょう。でも、ここでは「自分で調べてみた」ということが大切だということに気付いてほしいです。

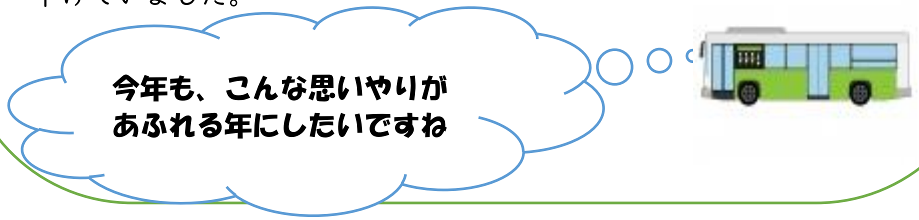
みなさんは、今後予期せぬ未経験の課題に遭遇する可能性が多くあります。そんな時にどのようにして課題に取り組むのかがみなさんひとりひとりの生きる力になります。答えをただ知るだけではなく、知るまでの過程が重要です。今後求められる学力は、知識・技能、思考・判断・表現、そして主体的に取り組む態度なのです。このような学力を生徒のみなさんが身に付けてほしいと新年にあたり願っています。それでも、クイズの答えが是非知りたい人はいつでも校長室に来てください。

最後に、生徒のみなさん、保護者・地域の皆様、おひとりおひとりに新年のご挨拶ができませんので、私の大好きな話「バスと赤ちゃん」（右掲載）を紹介します。読んでいただき皆さんの心の温度が1℃でも上がって、温かい気持ちで皆さんとともに新年を祝いたいと思います。

「バスと赤ちゃん」

満員のバスの車内は、立ち並ぶ人の熱気と暖房とで、不快なものでした。バスが静かに走り出した時、後方から赤ちゃんの火のついたような鳴き声が聞こえました。人の熱気と暖房とで、赤ちゃんにとって泣く以外になかったのだと思いました。泣き叫ぶ赤ちゃんを乗せて、バスは、新宿に向けて走り出しました。

バスが次のバス停に着いた時、何人かが降り始めました。最後の人が降りるとき、後方から「待ってください。降ります」という若い女の人の声が聞こえました。その人は、人の間をかき分けるように前の方へ進んで来ます。その時、私は、その人が泣いた赤ちゃんを抱いていたお母さんだとわかりました。

そのお母さんが、運転手さんの横まで行き、お金を払おうとすると運転手さんは、「目的地はここですか」聞いています。その女性は気の毒そうに小さな声で、「新宿までなのですが、子どもが泣くのでここで降ります」と答えました。すると運転手さんは、少し考えてからマイクのスイッチを入れました。「皆さん、この若いお母さんは新宿まで行くのですが、赤ちゃんが泣いているので、皆さんにご迷惑がかかるので、ここで降りると言っています。子どもは小さい時は泣きます。赤ちゃんは泣くのが仕事です。どうぞ皆さん、少しの間、赤ちゃんとお母さんを一緒に乗せてください。」と言いました。

私は、どうしていいか分からず、たぶんみんなもそうだったと思います。ほんの何秒かが過ぎたとき、一人の拍手につられて、バスの乗客全員の拍手が返事となっていたのです。若いお母さんは何度も頭を下げていました。